死を讃えるドナルド・ホール

——具象による抽象、抽象の具体化

森田　孟

「死への礼讃」Praise for Death

1

死を讃えよう　桃色の頬を灰に変え、
父親を息子と娘から取り上げ、涙を
上品な寡婦の眼に溢れさせるのだから。死を讃えよう
我らに手足の力を抜かせ　涕泣させるのだから　続いてゆ
く海の近くの平らな畑の墓所の端で。死を讃えよう

2

私の躰をあなたの躰にくっつけさせて　肌に接する肌を
時には途方もなく甘美にするのだから、十月が
マッキントッシュ林檎[1]の果肉を甘くするように。讃えよう
死を　スナップ写真に焼き付けて、四十年前の或る午後を
砂地の細道に定着させるのだから。我らが立ち止まって

3

互いに抱擁し合っているうちに、死を讃えよう　犬が主人
を讃えて声を挙げ、恭順を表し、丸まるように、
死を讃えよう　スパニエル犬がピットブル犬[2]を讃えるよう
に。
結局　彼女[3]に残されているものは、八か月前の私の友
と較べたら　オレンジにとってのオレンジの皮だったのだ

4

まるで果実の破片(かけら)が――かつては鼻につーんと臭って湿っていたのに、今では
コーヒーの出し殻で汚れていて――脈打って眼を開き、止まることなく
金切り声を挙げているみたいだ。我らが苦痛の通路に入り込み　闇が地下を用意していると想像する時には、想い起こすのだ
杯から飲んだイエスを、「何故御身は私を見棄てたもうたのか？」[4]を。

5

死を讃えながら我らは歌う　「両河の間」に、
悲嘆の土着の歌い手であるウルク[5]の王に、関わる部分を。
尊大にもイチジクの葉[6]を用いるヴィクトリア朝人は　死を讃えるのだ
インカ帝国の民のように、あるいは秦[7]の初代皇帝のように
彼はテラコッタで不死の軍隊の模型を造るのだから。讃えよう　大きく開(リクタス)けた口を　不随意の排泄物の放出を

6

ポワルー[8]の常のように、そしてアッチラ[9]とウェスタの処女[10]を。
我らは思い出す　プレクシガラス[11]の仮面の背後の恐怖に駆られた顔を
ハドリアヌス帝[12]がアンティノウス[13]を思い出すように。あなたは裕福で若く、
幸運で美男子なのか？あなたは年老いた知られざる人か？

7

あなたはメソポタミア人[14]、郊外居住者、コサック人[15]、パリっ子なのか？
我らは死を讃える　大いに、我らは己が子らに死んで遺贈する。
七十八歳の時、ヘンリー・アダムズ[16]は一九一六年の夏をブルックス[17]と
議論しながら過ごした　「宇宙の完全な失敗を
特に何より**我らの**国のを」。ロンドンから彼は消息を受けたのだ

8

ハリー・ジェイムズ[18]が死んだと、他でもない「私の妻の一
族に属していた」
と彼はエリザベス・キャメロン[19]に書いた、「しかも御存知
だろう　私がどれ程
妻の一族にぴったり寄り添っていたか」。三十年前、彼は
クローヴァー[20]を見つけたのだった
まだ温かで、彼女の唇は青酸カリで濡れていた。
「今日は一日中」と彼は書いた、「私は［一八］七〇年代
を生きていた」と。

9

川の辺（ほとり）に廃棄された工場群が墓石のように片向いており、
水車小屋が壊れた窓々の背後にくしゃっと潰れている　建
設のために崩された土壌の上一帯に、そこでは製粉工が生
計を立てていたのだ
不快な　騒々しい　悪臭に晒されながら、果てしないベル
トとホースは　廃棄物を蒸気にして流して　魚を殺す川に
していた。

10

商業が死ぬ、すると商業が勃興する　到る所で。
もし月曜日に「ボストン・グローブ[21]」紙を読めば目を惹き
付けられるだろう　仕事欄の部門索引、「死」「漫画」に。
老いた父親の威厳は、日々刻々に自分の一連の苦痛をなぞ
って数え上げているうちに　強張って活人画になるのだ。

11

終日彼は、欲望抑圧の処方箋を研究する、慎重に
自分に所有不可能なものは決して欲しがらないようにと。
彼は物言いを制禦する、
彼は欲望を制禦する、それで若者めいた真剣な青い眼が
彼の顔から窺えるのだ　彼が兄弟の孫娘に買ってきてと頼
む時に、
医療用品店から　ゴム製のパンツと使い捨ての当て物とを。

12

死を讃えよう　自ずから死しか存在しない程までに強力に
なるのだから、朝食にも　ロングアイランド[22]
高速路にも　巻き煙草にも　マウイ[23]の浜辺にも、

あの「虎たち」[24]にもならず、日の出になっても死の相の下
にしかならないのだから。死を讃えよう　退いてゆくのだ
　から。或る日

13

我らは気付く、目覚めてから一時間経って、丸々一時間
自分がその死者を忘れていたことに、つい最近地下に去っ
　たばかりなのに
彼に我らは誓ったのだ　眼を開けた瞬間からいつも悼みま
すよと。一晩中眠っていても私は見詰めている　筋骨逞し
い憤(いきどお)った
肉体が　無害な空中を疾走し突進して、宙に舞って　いる
　のを

14

キアサージ[25]の西の斜面の上に浮き留まっているハング・グ
　ライダーのように、
火を被(かぶ)ったのだ　爆発して、ぱっくり裂けて、固まって燃
えているポルシェから、その間その遺体は空中で歪んだま
　ま、両腕は
くの字に曲がり、エクソン帽[26]は脆い頭蓋骨から離れて、髪
　のポニーテイルは
まっ直ぐ伸びたまま、遂に大理石にぶつかって終っている
　のだ。讃えよう

15

死を　頭蓋骨を肺臓を脾臓を肝臓を心臓を破裂させるのだ
　から。
死を讃えよう　あのピアノ奏者のために　彼は高校を一九
　二一年に
中退し　フランスとイタリアをホットジャズ[27]を演奏して回
り「ラッド・グラスキンと彼のジャズ」楽団と録音した
　のだった
不器用なバレルハウス[28]の四百曲を、彼はビックス[29]と即興演
　奏したのだ

16

一九三〇年にウォールド・レイク[30]で、彼はフオックストロ
　ット[31]を無造作に
弾いた　ゴールドケット[32]とウィームズ[33]のために、ウィルク

スバリー[34]とアクロン[35]の
ドラム[36]の不況の夜な夜な、彼は腰を落ちつけて、ナイトク
ラブで演奏し　稽古をつけ
音楽家のローカル番組を運営した、そして死んだ時
一千冊の本を後に遺した、中には読んだ印がついていた。

17

泥の死を讃えよう　建設業者の話によれば
表土を保つ最も有効な方法は
すっかり舗装することだ。ハムデン[37]のピーターセン農場は
栽培していた
唐黍、豆、及びトマトを　ニューヘイヴン[38]の市場で売るた
めに。
百年間　その農産物は熟していた　アダムズ大通りの

18

地方で　酪農場ののろのろした牛の群の間で。
今や斜面一帯は　毛羽立ったアンテナを突き出している、
地面は隠れているのだ
「止まって買物[39]」「ブルックス」「ボブの」「コールダー」
「クレイジー・エディーズ」
などの駐車場や泥だらけの潰れかかった粗製小屋の下に。
帝国は褐色になりながら腐敗する。商品のがらくた置場は

19

泥を覆うコールタールの中に滑り込んでいて浸食、太陽、
風に傷つかないでいるし
緑の葉の、壊れることのない唐黍の、切れやすい先端を
守っている。
彼[40]の右眼のすぐそばと首の低い辺りには　皮膚のつや光る
継ぎ痕が
除去した癌を輝かせている。その五十歳の詩人と私は
セルツア[41]炭酸水を飲む、「バッタ亭[42]」で一緒に、彼は毒づ
く

20

同胞のギリシャ人を糾弾するテルシーテース[43]のように。お
そらくそれで
彼は殺されたりはしまいが、毎年毒キノコに中(あた)るだろう、
「**私はしたい**」――彼の様子は

憧れそのもの、欲望が彼の顔を別物にしている――「**私は只管死にたい**」。
決して忘れないでおこう　動物の死を讃えることを、
その若い赤毛の雄猫は――長毛で、尾は狐そっくりで、

21

足先の間には柔毛の鳥の羽毛が急に現れ出ているが、
驚愕の　短い痛高い声を出した、ゴム人形から搾り出された音そっくりだった、と見る間に彼は　床に飛び降りた
高い書棚から、そして扉の取っ手をがたつかせた　自らの力で扉を開けようとして、彼は、もし我らがそれでその同じ扉を開けても

22

さあ通りなさいという当方の理に合わない善意の示唆を拒むのだった、
彼は跳ねてゆき、決して歩かなかった、彼は弛みなくネズミを狩り
打ち叩いて　鼠どもに絨緞の布地を引き裂かせなかった、
彼は目覚めている間は大抵　食料収納室の窓から
小鳥を凝視(みつめ)て過ごした、彼は我らの腕の中で大の字になってひっくり返り　長い

23

脚を固く広げていた、大きな波立つ尾をぶらぶらさせながら――
突然衰えて肝臓疾患で死んだ、我らは彼を埋めたのだった
今朝　家畜小屋のそばに、猫の墓地に、
青花紫苑(アスター)の下に、最後に赤い耳を土で覆って突き固めた。
階下では彼女[44]の姪たちが集って泣いている　柔らかな椅子の間で

24

その間　隣りの人々が蒸し焼き鍋を持ち寄って沈黙、
寝室では男鰥が押し入れの扉を開ける
そこには彼女の衣服が吊り下がっており、ハンガーが一つ揺れている。
谷間のせいで川から広く膨らんでいる国道四号線のそばの「ブラックウォーター農場[45]」は　四百エイカーの黒い土が

25

氷河の砂を覆っており、そこでジャックと彼の叔父たちが
　撒いていたのだ
一世紀に及ぶ牛糞を。彼らは飼育する牛の乳を朝に夕べに
搾り、牛に穀物を、貯蔵牧草を、干し草を与えたが
一方　その回復可能な姉妹たちは　川縁で水を飲み、
反芻し、年ごとに子牛を生み、弾み動きモーモー泣いて

26

互いに子牛を生んだことを讃え、生産したのだ　泡立つ
青白いホルスタインミルクの大西洋を。昨日幾本もの道が
作られた、大型の黄色い土木機械が　ヘナ土から砂に到る
まで地均しをして、何しろジャックの息子リチャードが建
　てるので
車庫二棟と車回し二本付きの「コロニアル・ケイプス」[46]五
　十舎、即ち「リヴァーヴューメドウ農場」[47]を

27

びっしり覆われた沖積層土の上一帯に。「死は起りがちな
　のだ」、
あの教授の実際の発言どおり、「人生の最後に」。
彼の娘が仕事から帰宅して　クラレンスが寝台で冷たくな
っているのを見つけたと聴いた時、私は想い出したものだ
　あの静脈の浮いた
両頬と　簡潔な物語とを、一瞬の間　私は彼を悼んだ。

28

それから私は感じたのだ　自分の肺が膨張するのを　深々
　と、痛みを伴って、
私は想像した　私自身の亡骸を乱れたキルト布団の下に
一年のうちで初めて　私は感じたのだ　自らがくしゃっと
　潰れるのを
煙草を吸いたい欲求の下に。あなた同様　私も死にたい、
我らは死を讃える　喫煙する時に、そして禁煙する時に。

29

農場主が彼を解雇した後、その酔っぱらった農場労働者は
　日暮れに
戻って来て　その農場主をタイアレバー[48]で打ち殺した、
彼の妻と六歳になる息子とが立って見詰めている間に。

父の遺体が湿った砂にどさっと置かれて　血が
両耳から輪になって流れた時、その少年は――彼は目撃し
たことがあった

30

首なしの雌鶏を、突き殺された豚を、家畜小屋でぴくぴく
動いている
麻痺した騾馬を――叫んだ、「死んで！　どうか死んでよ、
お願いだから」と。
讃えよう〈郊外一致信条（コンセンサス）　聖ニヒル教会〉を、
聖ニヒルで　我らは柩を葬儀のために閉ざしている、
我らが聖ニヒルで聖体を拝領する時、婉曲語法が溶け出す

31

のだ　我らの口の中に、**逝く**[49]、**亡くなる**、**眠る**、**去る**、**息
を引き取る**　と。
真黒にし消し去り、天地をひっくり返す衝撃の火によって
一挙に、あるいは錆付きと腐敗をもたらす幾度かの火によ
ってゆっくり
古い家屋は死ぬ、家畜小屋や離れ屋は死ぬ。
死を讃えよう　大工がハンマーで打ちつけた釘を取り去る
のだから

32

シャイロー[50]の戦いの際中のことだったが、死は手斧で樫の
木に施す角材の形を溶解するし、遂には開拓者の屋根を
潰して穴蔵にするのだから、そこでは二世紀前に切り出さ
れた木材が　雑草や若木に混じって腐っている。さあ
死を讃えよう　技術と雄牛によって建てられた家のために。

33

老年の死を讃えよう。我らの尻尾を振りながら、
わんわん吠えながら、くんくん鳴きながら、讃えよう　突
然の乳幼児急死[51]
と、戦場での死を、青い[52]軍服を着て小銃兵は突撃する
大理石の壁に。讃えよう　飛行機の墜落を。
我らは三十歳の写真家スティーヴンを埋葬した

34

ミシガンの十一月の雨の中で。彼の骨張った寡婦サラは

青ざめて
ゆったりした黒衣に身を包み、感情に駆られるまま前屈み
になっていた
柩が黄色いクレーンから吊されて　穴の
上で揺れている時。彼女がその箱の光っている湿った楓材
に手を触れると、それは幽かに彼女から揺れて離れた

35

下方へ向かっても揺れ続けていた。スティーヴンの母のジ
ョーンが
最初に跪いて　湿った土を柩の蓋の上に掻き注いだ、
それから彼の父ピーターが一握り持ち上げて振り撒き
それから妹のサラが、それから寡婦のサラが。ぎざぎざし
た墓地の木々の下に、若い墓掘りの五人が立って

36

一緒に煙草を吸っていた、刺青を入れた　ひげを剃ってい
ない男たちが
野球帽を被り、足の重心を右へ左へと移し替えながら　何
も言わずに、ミシガンの十一月の雨の中を一度も見ようと
もせずに。
「身も世もなく、身を切るばかり私は泣いている　血を分
けた我が兄弟エンキドゥ(53)のために。
私は　我が友を支配した主人格の死を**讃える**べきなのか？

37

私は彷徨う　森の中を狩りをしながら　塩辛い涙を流して、
怒りのうちに私はその鹿を屠(はふ)る。激しく私は泣き叫ぶ、
〈どこにも私には　休もうにも眠ろうにも頭を横たえられ
る所がない！
絶望(デスペア)が私の肝臓を吸い出してしまった！　孤独地獄(デソレイション)が苦い
肉を食いちぎるのだ
私の腿(もも)から！　我が兄弟に起きたことは私にも起きるだろ
う〉と。

38

私は立ち尽くした　彼の亡骸のそばに八日間。私は彼に哀願
した　死を
放り投げてくれと、自らの黄金の胸当てを持ちあげて身に
つけてくれと。

九日目になって蛆が彼の首の皮膚から這い出してきた。
今や、それ故、私は登ってゆくのだ　太陽の庭へと、ウトナピシュティム[54]の所へと
あらゆる人々の中で唯一人　洪水の後にも死ぬことなく生きる人だから」。

「死を讃えよう」'Let us praise death' で始まり、この句が作中で十三回使われながら、種々様々な「死」を「讃えよう」と呼びかける、五行詩三八連から成る総計一九〇行の、ドナルド・ホール[55]の長詩[56]である。

反復句以外にも「死を讃える」は、動詞の三人称単数形や現在分詞形を含めて他に八回使用されており、この作中で二十一回も「死」は讃えられる。因に動詞「讃える」'praise' は異なった語形も含めて全部で二十七回使われ、「死」は 'death' の二十六回の他に、複数形や動詞 'die' とその変化形の十三回を合わせて合計三十九回現れる。

第一連冒頭行で「死を讃えよう」と始まったこの作品は、最終第三十八連最終行を、「死ぬことなく」'without dying' と 'dying' で終了させるのである。

ある身近な寡婦になったばかりの女性が、この詩を作者にまず、構想させるきっかけになったものだろう（第1連）。そこから次々に連想が展開してゆくが、連想とは言ってもそれは、場面がぱっぱっとあるいは、すーっと移り変わってゆく趣である。妻に自殺された時のヘンリー・アダムズに思いが及ぶ（第7～8連）。ある青年の激烈な事故死（第13～14連）、そこでは特に、第十三連五行目の 'body' と第十四連三行目の 'body' の使い方に注目したい。同じ語彙だが、前者は「肉体」、後者は「遺体」なのだ。

若いピアニストの死（第15～16連）、老年の死（第33連）、青年写真家の死（第33連）、その埋葬時の描写の何という具体的な生彩ぶり！。動物の死も忘れられていない。猫の死がある（第20～23連）。その第二十連五行目のダッシュ（―）と第二十三連一行目のダッシュとの間の十二行は、その雄猫の生前の様子を生き生きと眼に見せてくれる。殺人による死があり、遺族となった幼児の悲痛な姿は一読容易には忘れ難かろう（第29～30連）。南北戦争中の一挿話（第31～32連）にまで想いが展がる。強力に人々を圧倒する「死」には、ただ「讃える」しかない（第12連、他）。「死」は、スパニエル犬（卑屈な人、追従者、おべっか使

いの象徴）のように讃えるしかない時もある（第3連）。

その間にも、「死」に繋がる風景・状況への、これも甚だ具体的な描写、言及があって（第9、19、34～36連など）「死」そのものに彩りを添える。

「**死への礼讃**」は、『アメリカ最優秀詩選集』*Best American Poetry* の一九九〇年版に選出されたが、その中に（pp.245-46）作者自身の解説がある。それをみておこう。

一九八〇年の秋、私は「讃美歌」'Psalms' なる仮題の下に何行か書いたが、それがこの詩の始まりだった、と言う。だからおそらく礼拝の調子が何行か残っているだろうと。何年かかけて材料を集めてそれの大半を書いたのは一九八四～八八年の間だった。

「詩への礼讃」は、一冊分の分量の長篇詩『ある一日』*The One Day*（Ticknor and Fields, 1988）と、特に「四大古典テクスト」（「田園詩」「歴史」「牧歌」「預言」）の共通の厳格な様態と重なっており、この詩の五行詩連は『ある一日』の十行詩連から派生している。ここでは大半、ある眼に見える格子枠組 'grid' の中で、種々様々な素材が併置されているのだと。この詩に長い間関わった後、ホールは思い出したのだと言う。ギルガメシュの恐ろしい嘆きを。それで彼はウルクの王をこの詩の初めの箇処に付加し、[注（5）及び（54）参照]、結末のために、韻文化した聖書の章句 'paraphrase' を加えたのだと。

「この詩はその構造を、作詩法から採っている。そういうものは長い期間かけることによってしか書けないものだ。種々の融合、書き直し、再構成、及び長年凝視した挙句の夢から紡ぎ出された様々な結合によってしか。一片の幸運に依存する詩は幾らでもあり、そういうものは素早く存在することになろう。たとえ書き了えるのに長くかかるにしても。「死への礼讃」のような詩は、累積していって一山を成す砂粒のように、詩句につぐ詩句を付加しながら構成されてゆくのだ」。

成程、作品の実質・実態そのものが、作者自らの証言に合致しているだろう。

生きとし生けるものは全て必ず死ぬ。「死」は生命あるもの万物の必然の宿命である。天寿を全うした平穏な幸せな死は、唯、讃え、天に感謝してすむもので、誰もが希ってやまないだろうが、この世での死に、それはむしろ少なかろう。事故や災害での不慮の死、疾病・傷害での苦悶の

果ての死、有為な若者の志半ばの死、健康な筈の幼児の突然死、等々、そのような諸々の「死」を、唯「讃えよう」とすることで、避け難い必須の「死」に、我々は堪えるしかないのであろう。

だが、いずれは誰もが迎える死ではあっても、「自殺」による死を必須と思うわけにはとてもいくまい。自殺者当人の痛ましさは無論ながら、自殺された遺族の側の悲痛・苦悩は、到底、筆舌に尽し難かろう。特に、夫、妻、子供など、最も身近な身内中の身内の「自殺死」に遭遇したりしたら、その窮境を生き凌ぐには、怨みつらみ、後悔など痛恨の思いをどれ程繰り返してもし足りない程だ。そのような「死」こそ、敬虔に「讃える」ことで乗り切ろうという、これは提言であり、訴えであった。

微細に亙る生彩に富む「具体」によって「死」なる「抽象」を浮上させた詩、あるいは、「死」なる「抽象」を一つの「具体」に、様々に微に入り細に及んで形象化してみせた作品、その見事な一例としてこの長篇は感銘深い。

この作品を発表した当時は健在であった作者の妻ジェインは、五年後の一九九五年四月に、白血病で他界した。ホールはその「死」を、どのように「讃え」たのだろうか。

一九九八年版の『アメリカ最優秀詩選集』には、「宛て名のない手紙」"Letter with No Address" が選ばれるが、それを収録した彼の十四冊目の詩集『居ないままに』*Without*（Houghton Mifflin, 1998）は、妻ジェインの病気と死に関する作品集で、それが、ホールの「死を讃えよう」の実践だったのである。

注

（1）McIntosh　初秋に熟する暗紫紅色のリンゴ。一七九六年に最初にこれを栽培したカナダ・オンタリオ州のJohn McIntoshの名に因む。

（2）pitbull = pit bull terrier = American Staffordshire terrier　筋力質で頑丈な闘犬。

（3）第一連三行目の「寡婦」。

（4）"Why have you forsaken me?" イエスが十字架上で最後に叫んだ言葉。「詩篇」二二・一の「わが神、わが神、なんぞわれを棄てたまいし」（エロイ・エロイ・ラマ・サバクタニ）「マルコによる福音書」一五・三四。（エリ・エリ・レマ・サバクタニ）「マタイによる福音書」二七・四六。

（5）Uruk　イラク南部、ユーフラテス川（Euphrates, 2,800km）付近にあった古代スメール（Sumer）の都市。

大規模な遺跡発掘で知られる、特にジクラト（Ziggurat）と最初期のシュメール文字を記した粘土板が重要。バイブルではErech. 尚、前行の「両河」は、ユーフラテス川とチグリス川（Tigris, 1,850km）で、その流域は古代文明発祥地。

（6）figleaf　無花果、「創世記」三・七に由来する（人類の祖、アダムとイヴがイチジクの葉で腰裳を作った）。不体裁なもの、いかがわしいものを隠蔽する、臭いものに蓋、を示唆。

（7）Qin = Ch'in　古代中国の統一王朝（221–206 B.C.）、初代皇帝は、始皇帝（259–210 B.C.）この箇処、兵馬俑に言及。

（8）*poilu*　第一次世界大戦の前線のフランス兵。恐怖のためにおもらしをした、という指摘だろう。

（9）Attila　欧州に侵入し、大帝国を建設したフン族（Hun）の王（406?–即位 433?–453）。

（10）Vestal Virgin　古代ローマの女神ウェスタ（Vesta）に身を捧げ、女神の祭壇の聖火を守った六人の処女の一人。

（11）plexiglass　米国の商標。メタクリル酸メタルの熱可塑性重合体、透明度高く、軽くて耐熱性に優れ、加熱で自在な形に加工できる。

（12）Hadrian　ローマ皇帝（76–即位 117–138）、五賢帝の一人。

（13）Antinous　ナイル川で溺死した、ハドリアヌス帝の寵童。

（14）Mesopotamian　（5）の両河の間の西アジアの地域、現イラクの一部の住民。

（15）Cossack　主にヨーロッパロシア南部に住むスラヴ人で乗馬術に長じる。

（16）Henry Adams（1838–1918）米国の歴史家、思想家、小説も書いた。第二代、第六代の大統領を出した名家の出。名著、『モンサンミシェルとシャルトル』*Mont-Saint-Michel and Chartres*（1904, 1913）、他。妻が自殺後の翌一八八六年夏、日本に来遊した。

（17）Brooks Henry Adamsの弟（1848–1927）で、同じく歴史家。主著は斬新な見方のニューイングランド史『マサチューセッツの解放』*The Emancipation of Massachusetts*（1887）、〈力とエネルギーの法則〉の原理から欧州史を観た『文明と崩壊の法則』*The Law of Civilization and Decay*（1895）など。兄ヘンリーの著書『民主主義定説の衰退』*The Degradation of the Democratic Dogma* に寄せた序文は、アダムズ一家の知的伝統を感銘深く扱った名文。

（18）Harry Henry James（1843–1916）のこと。米国生れの英国の小説家・批評家。『ある貴婦人の肖像』*The Portrait of a Lady*（1881）、『黄金の盃』*The Golden Bowl*（1904）.

（19）Elizabeth Cameron（1860–1944）。上院議員J. Donald Cameron（1833–1918）の夫人で、ヘンリー・アダムズの

長年にわたる親密な文通相手。

(20) Clover　四つ葉を見つけた人を幸せにするクローヴァー。社交界の花と謳われたヘンリー・アダムズの妻の名。一八八五年に自殺した。尚、一八七〇年代は、アダムズが、その妻と共に最も幸福に過ごした時期。

(21) Boston *Glove*　日刊紙として一八七二年三月四日に創刊。以降米国の主要新聞の地位を保ちながら現在に到る。

(22) Long Island　米国ニューヨーク州南東部の島。その西端にニューヨーク市のブルックリン、クウィーンズの二区がある。

(23) Maui　米国ハワイ州中部の島。

(24) the Tigers　米国の大リーグ、アメリカンリーグの球団 'The Detroit Tigers'. 創設一八八一年。

(25) Kearsarge　ニューハンプシャー州にある山、標高二九三七フィート。

(26) Exxon　一八八二年創立の米国の石油会社、その社名入り帽子。

(27) *le jazz hot*　一九二五年頃の熱狂的・即興風演奏のジャズ。次行のラッド・グラスキンは Ludwig Elias Gluskin (1898–1989) で、ジャズドラマーでバンドリーダー。

(28) barrelhouse　揺籃期のデキシーランドジャズ。

(29) Bix = Leon Bismarck Beiderbecke (1903–31)'. バイダーベク。米国のジャズコルネット奏者・ピアニスト・作曲家。

(30) Walled Lake　ミシガン州の夏の避暑地都市。

(31) foxtrots　四拍子の緩調・急調を組み合わせた活発な社交ダンス（曲）。

(32) Goldkette John Jean (1893–1962)、ギリシャ系ロシア人、一九一一年に米国移民、ジャズピアニストでバンドのリーダー。

(33) Weems　通称 Ted Weems（本名 Wilfred Theodore Wemyss, 1901–63）ジャズ・ビッグバンドのバンドリーダーで、ヴァイオリンとトロンボーンの奏者。

(34) Wilkes-Barre　米国ペンシルヴェイニア州東部の都市。

(35) Akron　米国オハイオ州東部の、世界的なゴム工業都市。

(36) suitcase　米国のジャズ界の俗語でドラム（drum）。楽器を容れて旅する小型旅行カバン。ドラムで音楽の演奏家全体を代表させた提喩だろう。

(37) Hamden　米国コネティカット州南部の町でニューヘイヴン郊外。

(38) New Haven　ロングアイランド海峡に臨む港町、イエール大学（一七〇一年創立）の所在地、この詩の作者ドナルド・ホールの生誕地。

(39) 順に、STOP & SHOP, BROOKS, BOB'S, CALDOR, CRAZY EDDIES, 店の名、多く所有者の名を付ける。

(40) 次行の、五十歳の詩人。

(41) seltzer　起泡性天然鉱水、ドイツのヴィスバーデン付近の村 Selters に因む。

(42) Grasshopper Tavern　おそらく実在だろう。

(43) Thersites　『イーリアス』(*Iliad*) の中で素姓卑しく、不平の煽動を事として、アガメムノーンやアキレウスを罵ったが、結局後者に殺された。

(44) 次の第二十四連二行目の「男鰥」の妻。

(45) Blackwater Farm　おそらく実在だろう。

(46) Colonial Capes　この名称でも知られる、主にケープコッド（米国マサチューセッツ州南東部のケープコッド湾と大西洋に挟まれた砂地の半島）で十八―十九世紀初期に発達した小屋建築の様式。一般に長方形の木造一階または一階半建てで、急勾配の切妻屋根と中央煙突が特徴。

(47) RIVERVIEW MEADOW FARMS　おそらく実在。

(48) tire iron　一端が偏平になったタイア着脱用の短い挺子。

(49) リリの 'Euphemism'（婉曲語法）は順に *pass, pass away, sleep, decease, expire.*

(50) Shiloh　南北戦争の有名な戦場（一八六二年）、米国テネシー州東部、国立公園になっている。

(51) crib-death = sudden infant death syndrome.「乳児突然死［乳幼児急死］症候群」SIDS.

(52) blue　米国南北戦争中の北軍の制服の色。因に、南軍は灰色（gray）。

(53) Enkidu　ギルガメシュの従者で友人。

(54) Utnapishtim　バビロニアの叙事詩 *The Epic of Gilgamesh* で神々に愛され、大洪水を逃がれて不死を得た賢者、旧約聖書のノア（Noah）に当る。

(55) Donald Hall（1928–）十四歳にして、一生涯詩を書く決心をしたという、旺盛な創作力を示す。ハーバード、オックスフォード両大学で教育を受ける。ミシガン大学教授を二十年間勤めた後、一九七五年以降、妻で詩人のジェイン・ケニヨン（Jane Kenyon）と共に、ニューハンプシャー州に移住し、自由契約作家として生活する。その他の詳細は、彼の十行詩十一連の作品「預言」"Prophecy" の拙訳と解説（「オーロラ」*Aurora,*［発行所、オーロラの会（北海道武蔵女子短期大学内松田寿一研究室・FAX. 011・726・3144）］一七号［二〇一二年七月］、一一―一七頁）を参照されたい。

(56) 『新・旧詩集』*Old and New Poems*（Ticknor and Fields, 1990）所収。初出 *The Gettysburg Review.*